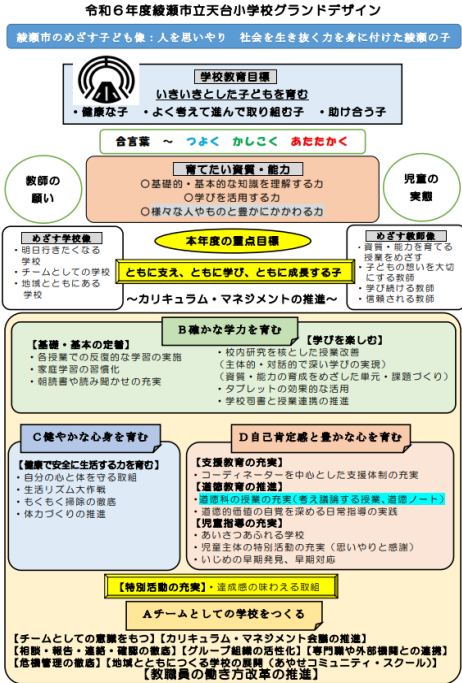


令和6年度 綾瀬市立天台学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども	
学校教育目標	いきいきとした子どもを育む ・健康な子・よく考えて進んで取り組む子・助け合う子	
学校経営方針 (グランドデザイン)		
今年度の重点目標	ともに支え・ともに学び・ともに成長する子	
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「よく考え、進んで取り組む子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	学習意欲については、児童からは肯定的な評価が高い傾向にあり、意欲を持って授業に取り組んでいると言えます。これは考えを伝え合う活動を通して、思考力や表現力を培ってきた継続的な授業改善の成果であると考えます。一方で保護者からの評価も、児童と同様の傾向がみられます。知的欲求を持って相手の考えを聞き、それを受け止めた上で主体的に考えられる力を育み、どのような課題にも主体的・対話的で深い学びが実現できるよう取り組んでいきます。
2 教育課程	児童は、運動会等の学校行事や委員会、学級の係活動に積極的に参加している。	学校行事に意欲的に取り組んでいる様子がわかります。今後も児童が集団生活の中で自らの責任を自覚し、自らめあてを持って取り組めるようにすることで、達成感が味わえるよう学校行事を工夫していきます。また、毎日の掃除や給食などの当番活動も集団生活の中で大切であり、役割を果たすことを指導していきます。どのような場面でもめあてを持たせ、それに対してのふり返りを行い、自己を見つめ直すことで次のめあてにつなげられるような取組を行っていきます。
3 児童・生徒指導	学校は、「助け合う子」を育てる指導を積極的に行っている。	概ね肯定的な評価になっています。各学級での指導とともに異学年との関わりを促す指導をしてきた結果、清掃活動や児童会活動などを通して互いに関わりをもつ様子が見られるようになりました。今年度も児童会の中の体育委員会や集会委員会が休み時間に運動や遊びのイベントを自発的に開催し、学校生活に活気を与えています。
4 児童・生徒指導	児童は友人や先生との学校生活に満足している。	児童の9割弱が概ね満足していると回答している一方で、約1割の児童が悩みや不安を抱えているという現実があります。今後も支援体制の更なる充実を図りながら、児童を取り巻く人間関係を注視するとともに、一人ひとりの児童の思いが汲み取れるように見守っていきます。そして全ての児童にとって心から「楽しい」と思えるような学校を目指していきます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	保護者からは「わからない」という回答が1割以上あります。また、取り組みが不十分と感じている保護者の割合も1割以上です。本校では学校便りなどを中心に、引き続きいじめは絶対に許さないという強い姿勢を伝えていきます。今後もスクールアンケートの実施やいじめ防止対策委員会の設置について、改めて周知していきます。児童や保護者の不安や悩みに対して常に応じられるよう、担任だけでなく教育相談コーディネーターやスクールカウンセラー等の存在を周知し、引き続き教育相談に応じる呼びかけを行っていくと同時に児童理解を深め、一人ひとりを大切に学校・学級づくりを目指していきます。
6 保健管理	学校は、「健康な子」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。	概ね健康な生活を送っていると捉えています。生活リズム大作戦や健康観察の結果からは、毎日、朝食を食べている児童が多いという結果も得られています。保健だより等を中心に「早寝、早起き、朝ごはん」の習慣がしっかりと身につくように指導するとともに、児童が自らの健康に関心をもち、めあてをもって運動する意欲を持てるような取組を計画・実践していきます。保護者から登下校の様子を心配する声がきかれたり、ゲームのやり過ぎ等で授業に集中できない様子も見られたりするので、児童の健康・安全を守るために、家庭とさらに連携していく必要があると感じています。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	教職員の多くが児童の安全を守るための取組を行っていると回答しています。安全についての指導の後は児童の変容を見取ったり課題を見出したりしながら、児童の安全を最優先に考えていきます。交通安全教室や避難訓練ばかりではなく、道徳や学級活動の時間などにおいて学校生活のあらゆる場面をとらえて命の大切さを学ぶ機会を増やしていきます。
8 支援教育	学校は児童に応じた支援の工夫をしている。	教職員が一人ひとりの児童に応じた支援の工夫を具体的に実践できていると考えます。支援教育についての理解は深まってきていると考えています。しかし一方で配慮が行届かなかったのではないかと感じている部分があることは課題です。個のニーズに対し、今後も教職員同士で情報交換を密にし、連携を図って、組織的により多くの目で見守っていきます。また、スクールカウンセラーの役割が周知されるに従って、保護者や児童のニーズも増えています。引き続きスクールカウンセラーや学習支援者と連携しながら、個に応じた支援体制の充実を考えていきます。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	学校運営について総括教諭をリーダーとした各グループで計画・立案されたものが、企画会議、職員会議を経て実践され、ふり返りをもとに新たな課題を見出し、改善に向けて新たな計画を立てるといったサイクルを徹底し、よりよい学校となるように今後も全教職員で取り組んでいきます。各グループの連携を図りながら、今後も地域や家庭に信頼される学校づくりをめざして運営を行っていきます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	児童が主体的・能動的に発見したことや考えたことを伝え合って取り組めるような学習の場を目指します。そのための校内研究体制について教職員の意思は同調していると考えます。あらゆる教科学習において今までの研究を深化させていくために、今後も引き続き全職員が協力して指導力向上を目指し、質の高い授業を目指して改善に取り組んでいきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。	概ね肯定的な評価になっています。これからより一層児童の実態や課題を把握し、共通理解のもと教職員一丸となって、児童が有意義な学校生活を送れるよう指導にあたっていきます。そのために、学校運営や教育活動に関わってくださる家庭や地域の方々との連携を密にするとともに、学校運営協議会を通していろいろな情報交換を行いながら、よりよい教育活動に努めていきます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	学校の取組に対して保護者の肯定的な評価が多くみられました。学校と家庭・地域が連携してこそ、教育の効果は高まると考えています。保護者や地域の方々に学校の教育活動について理解が得られるように、行事の取組やその際の児童の様子などについて情報発信するだけでなく、日常の学校の様子を伝えられる方法を検討します。
【学校運営協議会からの意見及び改善策】 6年生を送る会を参観して：本当に児童たちが主体となって運営している会であることに驚いた。入場扉の開閉から司会進行、機材操作などを教師ではなく子どもたちが協力して取り組んでおり立派だった。子どもたちの成長を感じられてうれしかった。 他市の子どもたちと接する機会があるが、綾瀬の地域性と言えるのか子どもたちがよく挨拶をできる。人間関係をつくる力がある。 いじめ問題について：子どもは自分の親に「自分はいじめられている」とは言えないものである。いじめについては、保護者が子どもにしっかりと教える必要がある。 朝の立哨ボランティアをしていると、親が挨拶する家庭の子は挨拶をできるようになる。挨拶をできる子どもを育てていきたい。		